

よい会社をつくろう。よい経営者になろう。よい経営環境をつくろう。

2017

1月号

vol.606

月刊

同友

MONTHLY COMMUNICATION MAGAZINE DOYU

特集

今回のテーマは「勝負は今！」

第26回福岡県中小企業経営者フォーラムのご案内

21世紀型
自立型
企業づくり

農業を未来につなげる架け橋になる

三宅 静恵 氏 [合同会社三宅牧場まきば]

準特集

仲間づくり・広報情報化交流会

広報を使い、どう仲間づくりをすすめるか



経営者フォーラム委員長
向井 徹
キャリアパス株式会社
代表取締役
(東支部)

3月開催

『勝負は今！』 今回のテーマは

第26回福岡県中小企業経営者フォーラム開催概要

開催日	2017年3月2日(木)	
基調講演	13:30~15:20	ホテル日航福岡
分科会	15:40~18:30	ホテル日航福岡、大博多ビル、福岡朝日ビル
交流会	19:00~20:35	ホテル日航福岡
参加費	会員	基調講演・分科会のみ 1,000円
	ゲスト	基調講演・分科会・交流会 6,000円 (交流会参加費を含む)

自社の将来のために
今の日本経済は英国のEU離脱、大企業の不正等の外部環境の変化に敏感に反応し株価や為替の乱高下に翻弄されています。そんなうねりに巻き込まれれば中小企業はひとたまりもありません。そこで、今回の経営者フォーラムはテーマを『勝負は今！』激動の中で、次の時代を構築する事業変革と成長戦略へのチャレンジ／人を生かす経営の実践と地域連携』としました。
今、中小企業の経営者は将来をしっかりと見据え、自社の強みを生かした事業変革と企業独自の成長戦略を構築しチャレンジしていかなければなりません。そのためにも社内においては同友会理念に基づく人を生かす経営と地域に根ざした、地域に必要とされる企業づくりが必要不可欠となっております。

フォーラムは学びの集大成
もともとフォーラムは、全国大会の一つでもある中小企業問題全国研究会(通称・全研)を目標として問題提起や学び方

を深めるために開催しています。全国レベルのイベントが身近で開催されるのです。特に今回は新しい試みとして、時期と場所を例年とは変更しました。今回のフォーラムは、開催時期を3月にしました。会場は、以前から要望が出ていた博多駅周辺とし、基調講演および交流会をホテル日航福岡、分科会をホテル日航福岡、大博多ビル、福岡朝日ビルにて行います。
福岡県中小企業家同友会の運動方針では、年に一度開催される経営者フォーラムは、一年間の運動と学びの集大成と位置付け、地区会や支部、委員会などを通じて多くの会員が参加し、運動の成果と課題を確認するとしています。

参加した方にすばらしい学びを
従来の参加人数を目標とするのではなく、参加した方がじっくり学んでいただくことが目標であり、テーマに即した基調講演と、10の分科会を設定いたしました。基調講演・分科会に対しても参加料をいただくことにしたのは、受益者負担・キャ

ンセル防止もありますが、真に素晴らしい学びの場であること意識していただくということのあらわれです。何卒ご理解ください。
フォーラム実行委員会では、一年を掛けてより良いフォーラムにすべく尽力しております。すべての支部より実行委員が選出されています。それは支部と委員会のパイプ役として今年のテーマの具現化をどう図っているのか、また進捗状況を会員さんに伝えていくためです。
日々の経営課題の解決手段として同友会に参加している会員さんはもちろんのこと、会歴の浅い会員さんや「何が分からないのか、わからない」起業したての方、同友会の関心のあるビジターの方など幅広い参加を希望します。
そして願わくはこのフォーラムでの『学び』を自社に落とし込んで『実践』していただきたいと思えます。同友会の目指す『企業づくり』の一環です。このフォーラムの主人公は、あなた自身なのです。学びの多いフォーラムにぜひご参加ください。

同友会 3つの目的

よい会社をつくろう

同友会は、ひろく会員の経験と知識を交流して、企業の自主的近代化と強じんな経営体質をつくることをめざします。

よい経営者になろう

同友会は、中小企業家が自主的な努力によって、相互に資質を高め、知識を吸収し、これからの経営者に要求される総合的な能力を身につけることをめざします。

よい経営環境をつくろう

同友会は、他の中小企業団体とも提携して、中小企業をとりまく社会・経済・政治的な環境を改善し、中小企業の経営を守り安定させ、日本経済の自主的・平和的な繁栄をめざします。

月刊同友1月号 自立型企業づくり

はみだししपोर्ट

三宅牧場まきばの三宅さんとの出逢いは、2012年2月に開催されたFBビジネスアイデアグランプリを主催された古堀俊行先生とのご縁で、「働くママコミュニティ」という企業ママのコミュニティで知り合いになったところから始まります。

第一印象は、そのときの懇親会の景品で、『ボン菓子の大袋』をもってこられていたこともあり、優しい米作り農家さんというイメージでした。

同友会にお誘いしたのは、私が青年部連絡会に所属し、2013年2月に青年経営者交流会を開催したときです。第1分科会の(株)TDS吉浦茂弘社長の「経営指針書の作成と実践」経営者の役割」のご講演をいただき、その後のグループディスカッションで家族経営でも経営指針書は必要！と盛り上がり、その後の懇親会ですぐに入会を決めてくださいました。

支部活動だけでなく同友会女性部で全国でも報告をされ、飛躍的に有名になっただけでなく、経営理念も指針もブラッシュアップを続けられ、できあがったのが「食と農を結び、農業を未来へつなげる架け橋となる」です。いい！と思ったら即実践の三宅さんは、明るく、楽しく、まっすぐに家族思い。今後ともよき友として、互いに影響し合い、一緒に社会に役立つ会社、地域のお店として存続し続けていきましょう！



合同会社
三宅牧場まきば
代表社員
三宅 静恵氏
(筑紫支部)

本誌p5掲載

ミコー薬局
古高 優子(かたか)
(かすや支部)



【今月の表紙】 撮影：富谷 正弘 (株)ココスイメージ(玄海支部)
毎年1月3日に行なわれる宮崎宮(福岡市東区)の玉取祭は、別名「玉せせり」といわれています。全国に知られる祭りで、今から500年前の室町時代に始まったとされている宮崎宮の神事です。300人の競り子は玉の争奪戦をくり広げながら楼門に待つ神職の手に玉を納め、陰陽の玉が揃って神前に納めれば神事は終了です。陸組と浜組に別れた玉の争奪戦は、陸組が玉を納めれば豊作、浜組が納めれば豊漁といわれています。昨年は浜組が玉を納めました。

『おいしい』を提供する6次産業

農業の未来に危機感を覚える三宅静恵さん。利益を出さなければ経営は成り立ちませんが、利益主義に走ると、繊細なバランスが崩れてしまいます。そんなこだわりを取りました。



農業を未来につなげる 架け橋になる

三宅 静恵 氏
みやけ しずえ
代表社員
合同会社三宅牧場まきば
みやけぼくじょう

合同会社三宅牧場まきば

創業 2005年
住所 筑紫野市大字常松2番地
電話 092-926-4353
従業員数 9名(うちパート8名)
HP URL http://www.miyakefarm-makiba.com
事業概要 地元筑紫野育ちのお米で餅等の加工品を製造販売しています



牧場というけれど

牧場と社名にありますが、主力商品はお米から派生した商品です。特に餅類が主流で正月餅、誕生餅、よもぎあんこ餅。菓子類では、おはぎやボン菓子。ごはん類では、はかた地鶏おにぎりやお赤飯などがラインナップされています。母親が代表を務める(有)三宅牧場で作られた米、博多和牛、完熟堆肥も併せて、筑紫野市常松の地で販売所を営んでいます。

実家で育てたお米(第1次産業)を、

取材 広報部
文章担当 菅原 弘(東支部)
写真 富谷正弘(玄海支部)

基調講演紹介

感動のオンリーワン企業を目指して ～お客様のニーズにとことん寄り添った真心経営～

基調講演報告者

そごう たかお 徳武産業株式会社
十河 孝男 氏 代表取締役会長(香川同友会)

徳武産業株式会社

創業:1957年 資本金:1,000万円 社員数:62名

事業内容:歩行に不安や困難を感じる方の「歩きたい」という切実な願いを叶えること。ケアシューズあゆみ、ルームシューズなどのオリジナル商品。介護靴の企画・製造・販売を通して快適な歩行をサポート。



徳武産業株式会社の魅力

苦しかった下請け時代

徳武産業(株)はかつて、学童用シューズ(上履き)や旅行用スリッパを製造していました。学童シューズにいたっては、大手メーカーの下請けで、厳しい品質管理がありました。

十河孝男氏は社長就任後、大手メーカーからの契約期限間近に、契約を延長しないことを告げられ、一気に窮地に追いやられました。すぐに社員を集め、こう伝えました。「徳武に『変化をしない』ということだと天から言われている」と。そして、ニッチ産業に取り組みむことを社員全員で話し、ルームシューズをはじめとしたファッションシューズを製造することになりました。大手通販会社を取り扱うこととなり、軌道に乗って安定したかと思った矢先に、売上が落ちてしまいました。大手通販会社の担当者が変わったのでした。他の通販会社に行くも、「徳武産業はこんなものしか作れんのか」と門前払いを受けてしまいます。

転機となった友人の依頼

ある日、特別養護老人福祉施設を

経営する友人が十河氏のもとにやってきました。「お年寄りが転ばないような靴をつくって欲しくないか」という依頼でした。

彼が言うには、施設内でお年寄りがつまづいて転んでケガをするとのこと。施設の床を工夫しても転倒がなくならず、調べてみると転倒の原因は履物にあるとわかったのです。子ども用の履物はたくさんあっても、お年寄りが施設の中で履く履物というものがない存在しないということとがわかりました。徳武産業(株)の主力製品である、ケアシューズあゆみはここからスタートしました。その後、30ヶ所以上の施設を訪ね、500人以上の高齢者から生の声を聴き、左右別々のサイズや仕様の違いの靴の組み合わせなど靴業界のタブーに挑戦していききました。これが、『お客様に寄り添い、笑顔をお届けする「ものづくり」企業』への出発点となっています。

なくてはならない企業に

平成24年(2012年)に『四国でいちばん大切にしたい会社大賞』四国経済産業局長賞、平成25年



(2013年)に『日本でいちばん大切にしたい会社大賞』審査員特別賞、『グッドカンパニー大賞』特別賞を受賞するなど、これらの栄誉ある賞を獲得されている企業であるということだけで、徳武産業(株)がどれほど素晴らしい、魅力ある会社なのかはわかっていただけたと思います。

主力商品である、高齢者向け22ヶアシューズあゆみ®が介護施設などで使われている高齢者シューズとして、大手メーカーを抑えシェア50%とトップにたつほど、企業努力が今日の徳武産業(株)を築いています。その道のりは順風満帆ではありませんでした。

続きは、経営者フォーラムの基調講演で。(アトラス化成(株) 穂坂昌之)

実家で作ったお米でお餅を販売してみました
 これが売れるし、リピーターもついてくる
 やりがい・喜びの感じられる仕事になりました

加工（第2次産業）し、販売（第3次産業）するといういわゆる第6次産業に展開していききました。

お餅を作ってみる

「このままではお米の価格は下がっていき経営が厳しい状態となっていきました。何とかしなければならぬという一心でした」

お米に何か付加価値を付けなければと考えていた三宅さんは、お餅を自宅で作って販売してみました。平成13年12月のことでした。「これが売れたんですね。もっとも年末ということもあり



販売所外観

ましたが…」と笑顔で話します。

このまま加工を本格的にやってみよう、筑紫野市内に餅屋をリタイアしたおじいさんがいると聞きつけ、懇願して『弟子入り』し、大型機械でのお餅の作り方を教えてもらいました。翌平成14年6月、中古の機械を購入し、コンテナを加工場として農産加工所まきばがスタート。

お客様の反応は好評で、製造に配達に、忙しい日々を送りました。三宅さんには小さな子ども2人がいて、子育てしながらの仕事です。「大変だったでしょう」とよく言われるのですが、何も知らなかったから夢中でやれたのだと思います」とケロツとした顔で話します。「作ったものが売れていって、さらに『おいしかったよ』とリピーターになってくれるお客様を見て、仕事のやりがい、喜びを感じました」。平成19年に法人化を図りました。

現在、三宅さんのほか社員が1名、パートさんが8名の体制です。全員女性、子育て世代です。「自分のライフスタイルで可能な時間に出勤するシフト作りを心がけています」。仕事は朝4時にお餅づくりが始まり、6時半には委



託販売先に出荷の車が出ます。販売所は9時から17時半まで営業しています。

循環型農業の実践

6次産業の生産部門にあたる(南)三宅牧場は両親の経営で、お米を7鈔作付します。そのうち5鈔は食料用のお米で餅米と食用米は4対1の割合で、残り2鈔は家畜の飼料米です（1鈔は100kg×100kg、野球場1面くらいに相当）。

牛は三宅さんのお父さんが力を入れて増やしました。現在300頭います。すべて食用で肥育牛といわれます。ちなみに牛乳を搾取する乳牛は酪農牛と呼ばれ、それぞれ育て方、エサ、運動の仕方が全く異なってきます。生後8〜9カ月の仔牛を繁殖農家からセリ市で購入し、30か月齢まで肥育します。牛は「ドナドナ状態」（三宅談）で二日市の加工業者に出荷されます。直販所で販売する肉は、一旦出荷した牛を枝肉の状態で購入し戻しています。「丹精込めて育てた牛です。正価で買うというのが一種のプライドです。育てた過程が分かっているのでお客様へ



誕生餅

の説明も具体的にできることが強みです」

牛が育つ中でフンが出ます。それに熱発酵を施して土に戻すと栄養価の高い土壌ができます。そこで作られたお米は甘く、いい艶をたたえます。そして稲のわらが牛のエサとなります。「いい稲わらは牛の脂のサシの部分に影響しておいしい牛肉になります。まさに循環型の農業です」

今以上の肥育牛の規模拡大を図ると飼料の稲わらが不足します。稲わらを増やすとそれを保管するスペースが必要になります。現在の300頭というのが、絶妙な循環バランスだといえるようです。

同友会との出会い

平成25年に青年経営者交流会（青年部連絡会主催）が福岡で開催された際、知り合いのフェイスブックで『経営指針書』という言葉が目に入り、ゲストで参加してみました。今まで無計画でいた自分を反省し即入会しました。経営指針作成「あすなろ塾」や経営指針作成セミナー（2泊3日）を受講し、自分なりに経営指針書を作成してみました。しかし社内での浸透という点ではほど遠いものでした。

平成28年6月、北海道旭川で開催される女性経営者交流会で報告する機会を得ました。改めて経営理念を見直しました。自分が危機感を抱いている農業の未来性を意識して次のように理念をつくり直しました。

「食と農業を結び、農業を未来につなげる架け橋になる」

「同友会は報告者が一番学びになりますね」。永く農業を続けるためにもお客様に喜ばなければなりません。三宅さんのこだわりはおお客様の期待を上回る商品・サービスの提供です。お餅は100%もち米を使用しています。おししきは折り紙つきですが、逆に日持ちがせず、すぐ固くなってしまいます。添加物を入れれば、柔らかく日持ちがして、賞味期限を長く設定でき、遠くのエリアまで販売することができます。しかし、それでは今までやってきたことを否定してしまうことになります。100%餅米には頑固こだわって

経営理念を見直し、
 やってきたことを振り返れば、
 やっぱり100%もち米に
 こだわりたい



平成28年2月には安倍晋三首相の奥様の昭恵夫人も三宅さんの活動を視察に訪れたそうです。

「女性経営者としてよく意見を求められますが、私は男女性別には関係なく人間としての個性が大切だと思っています。『あなた』を尊重した活動を心がけています」

農業を続けていく企業

取材の最後に三宅さんが考える自立型企業についてお聞きしました。

「いま私が取り組んでいるのは、農業で自立することです。自分たちの力で売り上げを上げて雇用を確保していく。とかく補助金に支えられている産業ですが、いつ打ち切られるかわからない補助金をあてにする仕事よりも、自分たちの力でしっかりとした経営をしていきたいと考えています。そして未来へ、子どもたちへ伝えていきたいです。そのためにも周りの仲間たちと一緒によくなっていききたいと思います」と笑顔で締めてくださいました。

取材協力ありがとうございます。



従業員さんと三宅さん(左)



事業所の裏の牛舎で飼育されている牛たち



会員4000名を突破した愛知同友会の取り組みに学ぶ

広報を使い、 どう仲間づくりを すすめるか

仲間づくり・広報情報化交流会
2016年11月12日(土) 13:30~17:30
ウエルンタル会議室
福岡市博多区博多駅東1丁目
はかた近代ビル4階

基調講演報告者
宇佐見 孝氏

宇佐見合板(株) 代表取締役
(愛知同友会 副代表理事・報道部長)



同友会略歴

28歳で愛知同友会に入会、青年同友会で活躍。青年同友会を卒業後、数々の役員を経て、52歳で広報部長に就任。56歳で3代目の報道部長に就任し、さらに59歳で総務・報道部門担当の副代表理事を兼任、現在に至る。

宇佐見合板株式会社

設立 1954年11月
資本金 2160万円
従業員数 35名
住所 名古屋市中川区西中島2-111
電話 052-381-5185
HP-URL <http://usamigohan.world.coocan.jp/>
事業概要 合板製造・販売・NC加工・成型合板製造
経営理念 「知恵と工夫を活かして物作りに挑戦」

中小企業家同友会全国協議会(以下、中同協)では、2013年8月に初めて組織強化・広報情報化全国交流会を名古屋の地で開催しました。その後2015年、2016年と会を重ねています。特に名古屋で開催した交流会では、福岡同友会の多くの理事が参加をし、愛知同友会のグループ例会に参加をして、グループ例会の必要性、会員主体の自主的な取り組み、それを担保するグループウェア「あいどる」の存在に多くの学びを得て帰りました。

以降、福岡同友会においても積極的にグループ活動(ブロック会)を行う支部が増え、組織強化の一翼を担うようになりました。

今回は、愛知同友会の報道部長、宇佐見孝氏をお招きして、愛知同友会の仲間づくり、またそれを支える広報活動について学びました。

同友会運動と情報創造 PR(パブリックリレーション)を具現化する

愛知同友会の理事会と 広報部会

会員数4000名を超える愛知同友会の理事は現在40名。理事会では必ず経営指針の発表を20分間行なっています。10分の質疑応答と決算書を公開することでお互いを知るようになります。それは同友会の理事に相応しい経営をすることが理事そのものの資格要件とも言えるからです。同友会らしい黒字企業になろうという方針のもとに始まりました。組織は役割

を明確にして簡素なものにしていきます。

その中で

広報部会のみ60ある地区すべてに担当役員をおき、日常的に「あいどる」(福岡同友会のe-domainにあたる)のレクチャーを行なっています。

グループウェア「あいどる」の 利用率は85%

2011年にFAXでの案内

後。

日銀の短観を担当する方も愛知同友会にヒアリングに来られます。会員も日銀が発表する短観とほぼ同じ景況感なので、情報が早い愛知の調査を信頼して活用をしています。宇佐見氏も原材料の仕入れを今なすべきかどうかなど、経営判断に活用しているとのこと。

始めるのです。

また、現在1000名になる青年同友会の力が大きくなっています。後継者となる若い経営者は次世代の中小企業を担う人材です。41歳になると行政地区の所属になるために、必ず一人が一人を紹介して卒業をしていきます(無言の共通認識)。

愛知同友会では、なぜ会員が 増えるのか?

愛知同友会では、小グループ活動(福岡同友会でのブロック活動)が活性化しています。同友会は本来、自主的活動なのですが、グループでは真逆のおせっかいは徹底して行なっています。人はだれでもかまってもらいたいと思っています。新会員の会社を訪問してその会社の経営課題を話してもらいます。するとその会社が見えてきます。参加者たちがアドバイスを送ることで、身近なことに關心を持つようになります。こうして腹を割って話をするので、自分の知り合いも連れて来ようとし

「あいどる」で 事務局の業務が激変

愛知同友会の事務局員は22名。大きなイベント以外は会員のお世話は一切しません。例会にも顔を出すことはないのです。会員が必要な資料はすべて「あいどる」からダウンロードをして各自が準備をします。

事務局の役割は愛知同友会のシンクタンクと位置付けられています。会員は例会終了後、「あいどる」に必ずデータをアップします。例会の写真を一枚、主旨、目的、内容、アンケート、これらがデータベース化され、情報の共有化が可能になっています。

中小企業のことなら 同友会に聞け

対外広報はいかにお金をかけずにPRするかがポイントです。そのために「あいどる」のアンケート機能を活用し、他団体との連携を継続的に行うことで人間関係づくりを構築してきました。選挙や税制、政策などについて適時アンケート調査を行い、会員の声を代表して会長談話として報道機関に配信をしています。中部経済新聞より提供していただく一面に毎月一回「同友会だより」を掲載。年に一回の「新春座談会」をはじめ、多くの会員企業がマスコミに取り上げられています。

これらの報道により、社員や家族が同友会を理解し、会員は会活動に誇りを持ち、自信へとつながっています。

最後に広報は飽きずに懲りずに継続し、地域から「中小企業のことなら同友会に聞け」と言われるような信頼を築くことが大切であると結ばれました。

交流会を通して見えてきた福岡同友会の課題

① ホームページの充実

支部や委員会、ブロック会などの行事、活動を会員が主体的に発信し、見える化することで活性化していく。そのためには、再度ホームページをリニューアルし、e.doyuと連携して会員が使いやすく、いつも見たくなるような工夫が必要。

② ブロック会活動の見直し

現在福岡同友会のブロック活動は、プレ例会の開催など例会づくりに多くの時間を費やしているため、会員企業の訪問活動が激減している。そのため、会員同士の経営内容がつかめず腹を割った裸の付き合いが少なくなっている。したがって、企業訪問で経営課題の相談・解決することで身近になり、退会を防止することにつながる。

報告者およびグループ発表を受けて、広報情報化推進本部副部長の貞池龍彦氏は座長として以下の内容で本日のまとめを行ないました。



広報情報化推進副部長
貞池 龍彦
株式会社アピリティーキュー
代表取締役

広報情報化、報道も組織強化の観点からどのようにビジョンを描いていくかが改めて課題として浮き上がってきました。月刊同友やホームページもその手段であり、対外広報では組織強化を常に意識した発信が必要であることを強く感じました。宇佐見さんがおっしゃった、地域とのリレーションをどのように実現をしていくのか、実現することで会員が自信を持ち、誇りを持つことで、地域との関係性がさらに高まります。また、会内においては、腹を割った会員交流で会社を良くしていく、会員同士の関係づくりこそ組織強化の原点、こうしたことが増強に結びついていくことだと強く確信しました。わが福岡同友会も中小企業のことなら同友会に開けと言われるような会づくり、対外発信に努めてまいりましょう。

今回の仲間づくり・広報情報化交流会を企画した樋口氏、田浦氏両本部長は以下のように本日の学びをまとめました。

参加者の声



退会を減らし、
入会者を
増やすために

りょうちく支部
里村 博
里村工芸
代表

愛知同友会の先進的な取り組みをうかがう中、すぐに実行できるもの、中長期的に取り組むものがあると感じました。支部ではまず、すぐにできるものを役員会で取り上げ、実行するか否かを話し合ってみようと思います。

りょうちく支部では、ここ二年間は会員訪問を中心とするブロック会を行ってきました。この間退会是一名に抑えられ、会員訪問が退会を減らす効果があったのかもしれないと考えております。しかし、ブロック会へのゲスト参加はなく、愛知同友

会のように仲間づくりには結びつけることができませんでした。今後はゲストを誘いやすい、ゲストが参加しやすいブロック会を企画することが必要だと感じました。

愛知同友会ではマスメディアとの信頼関係を築き、新聞やTVなどに取り上げられ、その結果がお金をかけない広報活動になっています。福岡同友会でも同じような活動を目指していると思いますが、愛知同友会の域に達するまではラジオCMなどで同友会の存在を広く知ってもらうことも必要かもしれないと思いました。

参加者の声



情報の共有を意識した
情報化こそ
仲間づくりの原動力

西支部
加茂 勝久

株式会社フォーマックスインシュアランス
代表取締役

現在、会員数4000名突破し、全国トップクラスの会員純増数を維持し続ける愛知同友会では、クラブ単位での活動による会員増強活動のみならず、これらの活動を愛知同友会独自のグループウェアである「あいどる」を用いて事前の合案内や活動報告を共有し、全ての行事活動の企画書、議事録のデータベース化、会議資料のペーパーレス化を推進されていることでした。

愛知同友会の広報情報化の実践の取り組みは、同友会理念の浸透や仲間づくりの推進をより効果的に具現化するため、対外的にはパブリックリレーションを意識し、会内においては全ての地区、グループの会員相

互、ならびに会員と事務局員間の効果的な情報共有、さらにはその情報の同根化ひいては草の根情報レベルまでを意識した情報の共有化を意識したものであることでした。

福岡同友会においても従来からFace to Faceでの仲間づくり活動は活発に行われておりますが、広報と情報を有効活用した仲間づくりにおいてはまだまだ発展途上だと認識させられました。またそれと同時に仲間づくりと広報情報化がより積極的な連携を図り、戦略的な取り組みを行うことによりこれからの福岡同友会の飛躍的な発展に繋がるヒントも得られとても素晴らしい報告でした。



仲間づくり推進本部本部長

田浦 通
株式会社シティーライン
代表取締役

一つ目は、本音で語れる場があるということです。誰でも新会員の頃は直ぐには会に馴染めず本音で語ることもなかなかできない状況です。そこで愛知では先輩会員が積極的に新会員さんを「構う」文化ができています。また支部も平均60名位の小規模であり、更に本音で語れる場として、8、10名の小グループ活動では身近な経営課題を取り上げられ、自社経営にすぐにも役立つなど、新入会員が会に早く馴染むことで結果的に定着率向上に繋がっています。

二つ目には、同友会で学び本当に会社は良くなっているのか？という運動の原点である企業づくりを重視し、新理事には決算書を開示していただき、もし悪ければ理事による改善指摘を厳しく行なっているなど、真剣に同友会運動と自社経営の不離一体化を目指していることです。

広報情報化の役割とは、会員のニーズを

掴み、有益な情報をいかに最適に伝えるかです。会員の経営課題をいかに的確に掴むかがポイントですので、取材記者の存在は極めて重要であると思います。また対外広報は情報の発信だけではなく、会外の客観的立場の著名人から同友会運動への評価やコメントをいただくことも大事です。そのことによつて私たちは同友会運動に確信を得たり、軌道修正を行なったりすることも可能であり、また会内外への同友会のアピール効果も絶大だと思います。

現在の広報は、月刊同友や、HP、チラシ、新聞報道などが主ですが、今後は情報の収集方法やその広報媒体の特徴や記事内容ごとに使い分けて、最も効果的な広報の在り方を検討していく必要があります。その最適な広報情報の仕組みが回りだした時仲間づくりにも大きな効果が出てくるものと期待をしています。



広報情報化
推進本部長

樋口 康治
株式会社アイル
代表取締役

4000名を突破した愛知同友会の増強の原動力は、小グループ活動(ブロック会)、グループウェア「あいどる」の活用、青年同友会の力にありました。

まず愛知同友会の小グループ活動は60地区(福岡同友会の支部)210グループあり、主に会員企業の訪問で経営課題を討議することにより、会員同士が親しくなり、退

青年経営者のつながり

会者が激減したこと。

次に、広報部員が全60地区から選出されており、各地区の会員と密接につながることで「あいどる」の利用率が約80%と非常に高いこと。最後に、青年同友会が各支部(福岡同友会の地区)にあり1000名の会員の力で活発に増強していることが考えられます。

愛知同友会活性化のポイント

1月の行事案内

14土 15:00~18:00 **役員研修室**



**第24期役員研修大学第5講
多様性を受け入れられる企業づくり**

～社員とともに生きる～

■比嘉 糸み子氏
有限会社やんばるライフ 専務取締役
沖縄同友会 相談役

私たち中小企業経営者は、いかに豊かな地域づくりをめざすかを考えていく使命があります。それは社会的責務だと言いつける比嘉さんが自社の経営をもとに、障害者の雇用、そして共有について熱く語りかけます。一人ひとりとは、不完全であり、その不完全さを含めた多様性を認めた時に、人間尊重の考え方がスタートします。

■同友会全体会議室 ☎092-686-1234
福岡市博多区吉塚本町9-15 福岡県中小企業振興センタービル11F

17火 18:30~20:30 **共同求人委員会**

2017年度共同求人 キックオフミーティング

～10年後の自社の姿を描けていますか?～

■同友会会議室 ☎092-686-1234
福岡市博多区吉塚本町9-15 福岡県中小企業振興センタービル11F

新年度活動の「キックオフミーティング」を開催致します!!
2017年度の年間活動計画の発表を行い、ご参加の皆さまと一緒に共同求人活動の意義を共有して、1年間のスタートを切りたいと思っています!!

23日 18:30~21:00 **企業連携推進委員会**

FAST1月例会(第26回経営者フォーラム第8分科会プレ報告会)

地域とともにきらめく 街づくり・人づくり

～DIYリノベ・まちのお掃除ボランティア 若者呼び込む地域再生～

■福岡県中小企業振興センター403会議室 ☎092-622-6230
福岡県福岡市博多区吉塚本町9番15号

■富山 博史氏 株式会社カンカングループ 代表取締役副社長 大牟田支部
1月FAST例会は第26回経営者フォーラム第8分科会プレ例会として開催いたします。

24火 18:30~21:00 **西支部
1月例会**

同友会を知る会 ～同友会の学びをどう活かすのか～

■福岡ビル 9階 福岡県福岡市中央区天神1丁目11番17号 ☎092-716-8021

■井口 夏貴氏 井口法律事務所 代表者 西支部
■桑野 英彦氏 福岡三和株式会社 代表取締役社長 西支部

社員数が多い事業所・少ない事業所それぞれの経営者の方に同友会への入会動機・目的・学びを経営にどう生かしているかなどの体験報告をしていただきます。

24火 19:00~20:30 **国際交流委員会**

フォーラム第9分科会プレ

■赤煉瓦文化館 福岡市中央区天神1-15-30 ☎092-722-4666

25水 18:30~20:30 **共育委員会**

社会人例会

■福岡県中小企業振興センター301
福岡市博多区吉塚本町9-15 ☎092-686-1234

**北九州
地区** 2017年新年祝賀会

**地域に若者を残し、
地域で若者を育てる**

～いま私たちにできること～

広島同友会呉支部の共同求人活動は、単なる人採りではなく「地元の若者の人生を応援する」をテーマとして、中小企業経営者、先生方などが立場を越えて手を取り合って活動しています。今では、高校の先生方との信頼関係もできて、中高生や若い先生方のインターンシップの受け入れ、合同企業説明会、先生方の企業見学、先生方と経営者との懇談会等を行っています。活動当初「うちの生徒は中小企業には行かん」と剣もほろほろでした。職場環境の整備、就業規則の見直し等を行い、若い人が入ることによって会社の雰囲気が変わりましたと嬉しそうに岡本社長は話をしてくれました。愚直に一生懸命な岡本社長の話を聞いて、地域で若者を育てるために、いま私たちにできることを一緒に考えませんか。

日時 2017年 **1月16日**(月)
18:00~21:30
18:00~19:50 記念講演会
20:00~21:30 賀詞交歓会

会場 リーガロイヤルホテル小倉
北九州市小倉北区浅野2-14-2
TEL:093-531-1121
記念講演会:3階クリスタル
賀詞交歓会:3階オーキッド

報告者 岡本 祐一氏
呉伸工業株式会社 代表取締役
(広島同友会)

参加費 記念講演会:無料
賀詞交歓会:6,000円

26木 18:00~21:00 **新会員フォロー
アップ委員会**

第134回新会員フォローアップセミナー

■同友会会議室 福岡市博多区吉塚本町9-15 11F ☎092-686-1234

2/6月 18:30~21:00 **経営労働委員会
労務管理部**

**人事・労務の基礎知識セミナー
就業規則の作成**

■GGソーラービル10F 福岡市中央区天神3-4-9 ☎092-741-2336

人を生かす経営において、社員が意欲を持って仕事に臨み能力を発揮できる仕組みを作ること、また、労働条件の最低基準を少なくとも守ることは大切です。労務関係を常に安定的に保ち、働く人が仕事と生活を調和させながら安心して働くことができるように、啓蒙していくためのセミナーです。

**福岡
地区** 2017年新年祝賀会

**Think Globally,
Act Locally**

～2017年日本経済の展望と
企業づくり・地域づくり～

2016年はイギリスのEU離脱、アメリカ経済の保守主義・孤立主義への回帰、中国経済の混迷などグローバル化の流れに変調が生じました。日本ではアベノミクスの下、トヨタなど大企業の国内生産・輸出は増えていないのに利益が急増するという不思議な現象が見られます。格差拡大社会の中で持続可能な地域・企業づくりの要点は憲章・条例に基づく地域経済循環力の強化であり、そのフロンティアが同友会型企業です。鳥の眼と虫の眼の複眼で状況を見据え、2017年を新たな企業づくりの起点としましょう。

日時 2017年 **1月19日**(木)
18:30~21:00

会場 都久志会館 TEL:092-741-3335
福岡市中央区天神4-8-10

報告者 吉田 敬一氏 駒澤大学 教授

参加費 無料

**筑豊
地区** 2017年新年祝賀会

**同友会筑豊20周年記念
新年祝賀会**

筑豊の地に同友会の組織が誕生して以来20周年を迎えます。今年度の新年祝賀会は、20年の活動の姿を振り返り、次の30周年に向けてスタートの場にしたいと考えております。同友会のみならず、中小企業団体や行政・自治体、金融機関の皆様にもご出席していただく予定です。

日時 2017年 **1月20日**(金)
17:10~(賀詞交換会19:15~)

会場 パドドゥル・コトブキ
飯塚市片島1-7-62 勝盛公園
TEL:0120-22-5138

第一部
17:10~18:20 記念式典「歴史を訪ねて」

第二部
18:30~19:00 「地域と共に」

第三部
19:15~21:00 賀詞交換会(参加費:6,000円)

**久留米
支部** **りょうちく
支部** 平成29年新春講演会

地域と企業と同友会

創業以来「食を通じ世の中のお役に立つこと」をビジョンとして掲げ、日本国内はもちろん、世界各国の4万点を超える食材を、福岡県を中心に、九州・山口の飲食店へ提供している岩田産業さん。競合他社がひしめきあう中で、業績を伸ばし続けている岩田産業さんの礎となっているのは「価値観の共有による、全社員の団結力」。岩田会長から同友会で学ばれたことを基に、理念と地域戦略、そして人財育成との密接な関連性について、ご自身の体験談や、具体的な事例をご報告頂きます。

日時 2017年 **1月20日**(金)
新春講演会 18:00~19:45
懇親会 20:00~21:30

会場 萃香園ホテル
久留米市榎原町87
TEL:0942-35-5351

報告者 岩田 陽男氏
岩田産業株式会社 代表取締役会長
(東支部)

参加費 講演会のみ:無料
講演会&新春祝賀会:5,000円

**大牟田
支部** **有明
支部** 平成29年新春講演会

福岡から全国へはばたくひよ子

日時 2017年 **1月24日**(火)
新春講演会18:00~
新春祝賀会19:30~

会場 ホテルニューガイヤオームタガーデン
2階 鳳凰の間
大牟田市旭町3-3-3
TEL:0944-51-1111

報告者 石坂 淳子氏
株式会社ひよ子 代表取締役

参加費 講演会のみ:無料
講演会&新春祝賀会:5,000円

お知り合いの方を誘って、是非ご参加ください。
お申し込み、お問合せは、e.doyu
もしくは、同友会事務局までお願いします。

「福岡県中小企業政策に関する要望と提言」を提出

11月22日(火)、福岡同友会は、小川知事に対し、「福岡県中小企業政策に関する要望と提言」を提出し、平成28年3月に県が策定した「福岡県中小企業振興基本計画」の実行に全面的に協力・協働していきたいなどの要望を行いました。

知事は、「提言についてはしっかり検討させていただき、よりよい中小企業施策を構築していきたい」と述べました。



発言する小川知事(左側の起立者)



前列左から田浦代表理事、小川知事、中山代表理事、後列左から坂田事務局長、玉井政策金融室長、川畑専務理事



小川知事へ提言書を渡す中山代表理事

2016年度 第7回理事会報告 (一部抜粋)

日時 2016年11月24日(木) 14時30分～17時30分
会場 福岡県中小企業振興センター 202会議室

出席 48名(出席率81.4%)
議長 森 茂博(副代表理事)

報告事項

1. 博多駅前道路陥没事故への対応について

11月8日(火)の博多駅前道路陥没事故後、周辺に事業所のある会員に安否確認を行った。事務局には、会員3名が事故の影響があり、会員2名は事故の影響がなかった旨報告があったと報告があり、会員の被害状況がわかれば事務局までお知らせをするよう呼びかけがあった。

また、お見舞いのFAXを送ったことや福岡市が開設した相談窓口の報告があった。

2. 金融機関との連携、今後の対応について

11月2日(水)に県内8信用金庫との業務提携記念行事について報告があった。

「参加者97名中39名が同友会会員で半分以上が金融機関側の参加だった。信用金庫の中小企業に対する経営姿勢に感銘を受け、非常に有意義な会合となった。

今後の対応については、会内で信用金庫の姿勢や取り組みについて広めていきたい。各信用金庫の窓口の一覧表等ができた第9発表し、各地区ごとに信用金庫との関係を深め、会員が利用しやすいようにしていきたい。」

審議事項

1. 2017年度役員選考

2017年度の役員選考について、室長および委員長が提案され、承認された。

理事会報告全文は、e.doyuの文書管理(理事会報告-2016年度)にアップしています。会員の方は全て閲覧できます。

確認事項

1. 会員企業の動きなど

- 経営革新計画承認企業 2016年10月(県30社/うち同友会会員企業1社)
牧本 貴宏氏 (株)まきもと(博多支部)
<テーマ>非公開
※累計で福岡県全体では5,083件、会員企業は394件
- グッドデザイン賞
永松 拓陸氏 (株)香椎造園(青年支部)
- 第10回北九州市ワーク・ライフ・バランス表彰
■企業・団体部門 奨励賞
坂本 敏弘氏 計測検査(株)(北九州支部)
- 第15回福岡県男女共同参画表彰
■「社会における女性の活躍推進部門」受賞
池田 雄図氏 ウェルビス悠愛(株)(中央支部)
- 中同協「2015年度『同友エコ』表彰企業」
■外部審査委員賞 (株)紀之国屋 B部門
中村 高明氏 (筑豊支部)
中村 大志氏 (北九州支部)
- エコ仕事づくり部門 (株)鐘川製作所 B部門
鐘川喜久治氏 (西支部)
鐘川貴一郎氏 (かすや支部)
前田 努氏 (福友支部)
- 特別賞 エコチャレンジ賞
光本智恵子氏 (株)すこやか工房(東支部)
- 事務局モデル賞
(一社)福岡県中小企業家同友会事務局
- CO2削減賞
井上 真一氏 (株)大匠建設(博多支部)



エコー電子工業株式会社オフィス



一般法人向けのPepper導入の体験セミナーなど開催しています

出迎えて案内してくれるPepper



ロボットで職場コミュニケーションを豊かに

Pepperがソフトバンクから初めて発表されたのは、約一年半前の2014年6月です。その当時から当社はタブレット端末やスマホを使ったシステム開発の延長上で、Pepperで何かお客様のビジネスにお役に立てないかと調査を進めてきました。Pepperはロボットの中でもコミュニケーションロボットといわれる分野に属しますが、その市場規模は2016年で500億円、2018年で1000億円、2020年には2400億円になると予測されています。Pepperの特徴の一つに感情認識機能があります。Pepperは頭部にマイク・RGBカメラ・3Dセンサー・タッチセンサーを備えています。これらの機能により利用者の表情を読み取り、平常・喜び・怒り・驚きといった人間の感情をパラメータ化して判

断することができます。例えば当社では従業員の勤怠情報と連動させて、Pepperから体調についてのメッセージを発信させています。その他これまでの開発事例として、クリーニングチェーン店でのクリーンングについてのお悩み相談やクーポンの発行、商業施設での店舗紹介とおすすめ品紹介にPepperとの記念撮影、市役所での市の歴史や文化をまとめた動画再生や市に関するクイズを出題するイベントアプリなどがあります。方言や踊りを仕込むこともできますよ。Pepperそのものはソフトバンクからの直接購入となりますが、Pepperに限らずサービスロボットを使った業務をお考えの方は、是非とも気軽に当社にお声かけください。Pepper共々お待ちしております。



エコー電子工業株式会社
福岡市博多区東比恵3-1-2 東比恵ビジネスセンター9階
TEL:092-471-0848 FAX:092-471-8621
http://www.g-hopper.ne.jp

経営方針
人とみどりとソリューション

わが社のイノベーション



ロボットビジネスのご紹介

杉本清人氏

Matsumoto Kyoto

エコー電子工業株式会社(1963年設立)。2013年度で、会社設立五十周年を迎え、ハード・ソフトの機器の提供、そのリサイクルまでソリューションサービスを提供し、顧客の事業強化、経営スピード向上などを支援。



月刊

同友

第六〇六号

会員からの投稿

Voice

世界最高峰のヨットレースが 博多湾にやってきた!!

～ルイ・ヴィトン・アメリカズカップ・ワールドシリーズ福岡大会～

11月19日・20日、世界最高峰のヨットレース『アメリカズカップ』が博多湾で開催されました。「アメリカズカップ」のはじまりは、1851年ロンドンで第1回万国博覧会を記念に開催された英国の国技であるヨットレースにあります。時のヴィクトリア女王が高さ92cmの銀製の水差しを優勝者に提供することにしました。レースには15艇参加し、内14艇が英国艇、1艇が米国艇でした。こともあろうに、米国艇（その名もアメリカ号）が優勝し、そのカップをアメリカに持ち帰りました（アメリカ号の名前にちなみアメリカズカップとなりました）。メッツ丸つぶれの英国側は、挑戦者を予選で決め、奪還レースに挑むこととなりました。後に多くの国が参加するようになり、これが世界最高峰のヨットレース『アメリカズカップ』となりました。優勝賞金などではなく各国の威信のみを掛けたレースです。杯（カップ）を争う競技としては、テニスのウィンブルドンより歴史があり、世界最古です。その前哨戦ともいえる『ルイ・ヴィトン・アメリカズカップ・ワールドシリーズ』がアジア初、福岡で開催されました。

今回の参加国は、現在防衛艇のアメリカに加え、イギリス、フランス、ニュージーランド、スウェーデン、そして日本からはソフトバンク・チーム・ジャパンが参戦しました。第9戦の福岡大会はソフトバンクにちなみ、レースエリアはヤフオクドームを望む地行浜沖となったわけです。レース艇はワンデザイン（同じ型）で艇長13.45m、マストの高さ21.5m、重さ1655kgのカタマラン（双胴艇）。マストとセールは一体化しており、最大の特徴は、ダガーボード（水中翼）で船体がフォイリングつまり浮き上がり、格段のスピードが生まれることです。

レースはフリートレース（全艇一斉スタート）で6レース行われました。迫力満点、ヨットレースの醍醐味を魅せてくれました。特に第2レースでは、わが日本艇はスタートから好位置につけ、巧みなマーク回航に成功し、最後まで攻めのセーリングでトップ・フィニッシュ。博多湾が大いに盛り上がりました。まさかこのビッグイベントが日本で、ましてや福岡で開催されるとは夢にも思いませんでした。挑戦する勇氣に感謝、その雄姿に感動しました。

菅原海事事務所 海事代理士 菅原 弘（東支部）



ソフトバンク本拠地にてトップをうかがう



おお、福岡で雄姿が疾走!!



出た!フォイリングの瞬間!!



100tクレーンでリフトアップ



コースマーシャル（警戒艇）担当中



ソフトバンク・早福監督との2ショット



真のアメリカスカップ（福岡市内某所）

一般社団法人 福岡県中小企業家同友会
「月刊 同友」編集部

〒812-0046 福岡市博多区吉塚本町9番15号
福岡県中小企業振興センタービル11階
TEL:092-686-1234 FAX:092-686-1230

北九州地区センター
〒802-0001 北九州市小倉北区浅野1-2-39
クルーズ浅野ビル 808号
TEL:093-551-3111 FAX:093-551-3344

県南地区センター
〒830-0038 久留米市西町1367-1
祥栄ビル2階
TEL:0942-33-3355 FAX:0942-33-3366

<http://www.fukuoka.doyu.jp/>

福岡同友会

検索

環境を守るため再生紙を使用しています。

二〇一七年一月一日（毎月一回・一日発行）
頒価三八〇円（年間四五〇〇円・送料込み）
会員の購読料は会費に含まれます。